参考文献（2025/2/14更新）

＜多文化共生＞

松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』（明石書店、２０２０）

近藤敦『多文化共生と人権』（明石書店、２０１９）

後藤裕幸『外国人と共生する日本へ』（カナリア・コミュニケーションズ、２０１９）

松尾慎編『多文化共生　人が変わる、社会を変える』（凡人社、２０１８）

山脇啓造他「多民族国家日本の構想」『東アジアで生きよう！－経済構想・共生社会・歴史認識』（岩波書店、２００３）

＜外国人労働者＞

『ルポ　差別と貧困の外国人労働者』（光文社、２０２３）

『五色のメビウス―「外国人」とともにはたらき ともにいきる』（明石書店、２０２２）

安田 峰俊『「低度」外国人材 移民焼き畑国家、日本』（KADOKAWA、２０２１）

指宿昭一『使い捨て外国人―人権なき移民国家、日本』（朝陽会、２０２０）

澤田 晃宏『ルポ技能実習生』（ちくま新書、２０２０）

『新版　外国人労働者受け入れを問う』（岩波書店、２０１９）

出井康博『移民クライシスー偽装留学生、奴隷労働の最前線』（２０１９）

『新 移民時代ー外国人労働者と共に生きる社会へ』（西日本新聞、２０１７）

『外国人労働者をどう受け入れるかー「安い労働力」から「戦力」へ』（NHK出版新書、２０１７）

芹澤健介『コンビニ外国人』（新潮新書、２０１８）

上林千恵子『外国人労働者受け入れと日本社会－技能実習制度の展開とジレンマ』（東大出版会、２０１５）

＜移民＞

宮島喬『移民国家としての日本ー共生への展望』（岩波新書、２０２２）

友原章典『移民の経済学』（中公新書、２０２０）

『国家と移民 外国人労働者と日本の未来 』(集英社新書、２０２０)

『移民と日本社会ーデータで読み解く実態と将来像』（中公新書、２０２０）

望月優大『ふたつの日本ー移民国家の建前と現実』（講談社現代新書、２０１９）

『移民政策とは何か』（人文書院、２０１９）

坂中英徳『日本型移民国家の創造』（東信堂、２０１６）

毛受敏弘『限界国家 人口減少で日本が迫られる最終選択』（朝日新書、２０１７）

山脇啓造他「多民族国家日本の構想」『東アジアで生きよう！』（岩波書店、２００３）

山脇啓造他「移民国家日本の条件」（２０００、明治大学社会科学研究所） ★オンライン版

２１世紀日本の構想懇談会『日本のフロンティアは日本の中にある』（講談社、２０００）　中野ナシ

＜自治体・地域＞

『地方発　多文化共生の仕組みづくり』（晃洋書房、２０２３）

『多文化共生社会を支える自治体』（旬報社、２０２３）

高谷幸編『多文化共生の実験室ー大阪から考える』（青弓社、２０２２）

岡崎広樹『団地と共生ー芝園団地自治会事務局長二〇〇〇日の記録』（論創社、２０２２）

岡崎広樹『外国人集住団地―日本人高齢者と外国人の若者の“ゆるやかな共生"』 (扶桑社新書、２０２２)

安田浩一『団地と移民』（KADOKAWA、２０２２）

大島隆『芝園団地に住んでいます』（明石書店、２０１９）

『地方発 外国人住民との地域づくり―多文化共生の現場から』（晃洋書房、２０１９）

毛受敏弘『自治体がひらく日本の移民政策-人口減少時代の多文化共生への挑戦』（明石書店、２０１６）

『大久保コリアンタウンの人たち』（２０１４）

『池袋チャイナタウン～都内最大の新華僑街の実像に迫る ～』（２０１０）

＜子どもの教育＞

『グローバル化と外国人児童生徒教育』（一藝社、2022）

松尾知明『多文化クラスの授業デザインー外国につながる子どものために』（明石書店、２０２１）

田中 宝紀『海外ルーツの子ども支援～言葉・文化・制度を超えて共生へ～』（青弓社、２０２１）

毎日新聞取材班編『にほんでいきるー外国からきた子どもたち』（明石書店、２０２０）

山脇啓造他編『新 多文化共生の学校づくり』（明石書店、２０１９）★中野あり

佐藤郡衛『多文化社会に生きる子どもの教育――外国人の子ども、海外で学ぶ子どもの現状と課題』（２０１９）

『外国人の子ども白書』（明石書店、２０１７）

小島祥美『外国人の就学と不就学 社会で「見えない」子どもたち』（大阪大学出版会、２０１６）

佐久間孝正『多国籍化する日本の学校－教育グローバル化の衝撃』（２０１５）

宮島喬『外国人の子どもの教育－就学の現状と教育を受ける権利』（２０１４）

佐久間孝正『多文化教育の充実に向けて－イギリスの経験、これからの日本』（２０１４）

山脇啓造他編『多文化共生の学校づくり』（明石書店、２００５）★中野あり

＜日本語教育＞

吉開章『入門・やさしい日本語』（アスク、２０２０）

嶋田和子『外国にルーツを持つ女性たち』（ココ出版、２０２０）

『多文化共生の地域日本語教室をめざして』（松柏社、２０１８）

田尻英三『外国人労働者と日本語教育』（ひつじ書房、２０１７）

＜やさしい日本語＞

吉開章『増補版 入門・やさしい日本語』(アスク、2023年)

吉開章『やさしい日本語 3文トレーニング』（駒草出版、2024年）

岩田一成『やさしい日本語ってなんだろう』（筑摩書房、2024年）

岩田一成, 栁田直美『「やさしい日本語」で伝わる!公務員のための外国人対応』（学陽書房、２０２０）

庵功雄他編『＜やさしい日本語＞と多文化共生』（ココ出版、２０１９）

庵功雄『やさしい日本語』（岩波新書、２０１６）

＜人権と差別＞

『マイクロアグレッションを吹っ飛ばせーやさしく学ぶ人権の話』（高文研、２０２１）

『レイシズムとは何か』（ちくま新書、２０２０）

指宿昭一『使い捨て外国人―人権なき移民国家、日本』（朝陽会、２０２０）

『インターネットとヘイトスピーチ 』（現代人文社、２０１９）

前田朗『ヘイト・スピーチと地方自治体』（三一書房、２０１９）

『ヘイトスピーチはどこまで規制できるか』（影書房、２０１６）

『ヘイトスピーチ解消法 成立の経緯と基本的な考え方』（第一法規、２０１６）

神奈川新聞取材班『ヘイトデモをとめた街』（現代思潮新社、２０１６）

安田浩一『ヘイト・スピーチー『愛国者』たちの憎悪と暴力』（文春新書、２０１５）

師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』（岩波新書、２０１３）

＜コミュニケーション＞

大橋理枝・根橋玲子『多文化共生のコミュニケーション』（放送大学教育振興会、２０２４）

徳井厚子『多文化共生のコミュニケーション 改訂版』（アルク、２０２０）

＜外国人支援＞

南野奈津子編『いっしょに考える外国人支援』（明石書店、２０２０）

＜入管政策＞

浅川晃広『知っておきたい入管法ー増える外国人と共生できるか』（平凡社新書、２０１９）

＜外国人留学生と大学＞

『混ぜる教育ー80カ国の学生が学ぶAPUの秘密』（日経BP社、２０１６）

＜外国＞

春木育美・吉田美智子『移民大国化する韓国ー労働・家族・ジェンダーの視点から』（明石書店、２０２２）

宮島喬『多文化共生の社会への条件ー日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』（東大出版、２０２１）

角知行『移民大国アメリカの言語サービス』（明石書店、２０２０）

宮島・佐藤編『包摂・共生の政治か、排除の政治かー移民・難民と向き合うヨーロッパ』（明石書店、２０１９）

ダグラス・マレー『西洋の自死ー移民・アイデンティティ・イスラム』（東洋経済新報社、２０１８）

エマニュエル・トッド『シャルリとは誰か－人種差別と没落する西洋』（文春新書、２０１６）

増田ユリヤ『揺れる移民大国フランスー難民政策と欧州の未来』（ポプラ新書、２０１６）

松尾知明『多文化教育の国際比較ー世界１０か国の教育政策と移民政策』（明石書店、２０１７）

園山大祐編『岐路に立つ移民教育』（ナカニシヤ、２０１６）

＜難民＞

滝澤三郎編著『世界の難民を助ける30の方法』（合同出版、２０１８）

根本かおる『難民鎖国ニッポンのゆくえ』 （ポプラ新書、２０１７)

＜ダイバーシティ＞

岩淵功一『多様性との対話ーダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社、２０２１）

『ダイバーシティ・マネジメント入門』（ナカニシヤ、２０１７）

＜歴史＞

山脇啓造「日本における外国人政策の歴史的展開」近藤敦編『多文化共生政策へのアプローチ』（明石書店、２０１１）

山脇啓造「地方自治体の外国人施策に関する批判的考察」（明治大学社会科学研究所、２００３）★オンライン版

山脇啓造「もう一つの開国」『日本社会と移民』（明石書店、１９９６）　中野ナシ

山脇啓造「現代日本における地方自治体の外国人施策－人権・国際化・多文化共生」内海愛子・山脇啓造編『歴史の壁を超えて－和解と共生の平和学』（法律文化社、2004）　　中野ナシ

＜ワークショップ＞

『多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック』（明石書店、2020）

『多文化共生で多様性を考えるワークブック』（研究社、2018）

『ファシリテーション入門』（日本経済新聞出版、2018）

＜「ハーフ」＞

下地 ローレンス吉孝『「ハーフ」ってなんだろう?　あなたと考えたいイメージと現実』（平凡社、２０２１）

下地ローレンス吉孝『「混血」と「日本人」ーハーフ・ダブル・ミックスの社会史』（青土社、２０１８）

＜その他＞

徳井厚子『多文化共生社会のキーパーソン』（ココ出版、２０２４）

室橋裕和『カレー移民の謎ー日本を制覇する「インネパ」』（集英社新書、2024）

大石奈々『流出する日本人ー海外移住の光と影』（中公新書、2024）

友原章典 『移民の経済学-雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか』 (中公新書、2020）

『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』（中公新書、2020）

『となりの外国人』（マイナビ選書、２０１９）

NHK取材班『データで読み解く、外国人依存ニッポン』（光文社、２０１９年）

ナディ『ふるさとって呼んでもいいですかー６歳で「移民」になった私の物語』（大月書店、２０１９）

『現代思想』２０１９年４月号（特集　新移民時代）

『POSSE』２０１９年３月号（特集　移民が開く新時代）

山脇啓造・山脇ゼミ「多文化共生のまちづくり」『平和創造学への道案内』（法律文化社、２０２１）